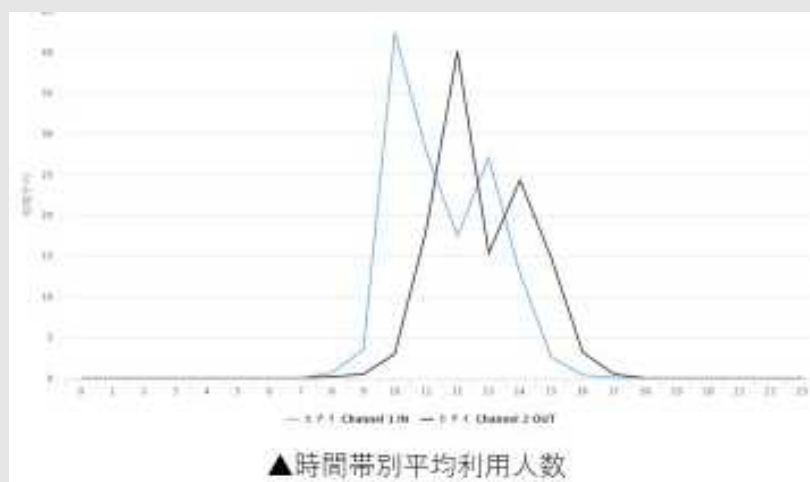
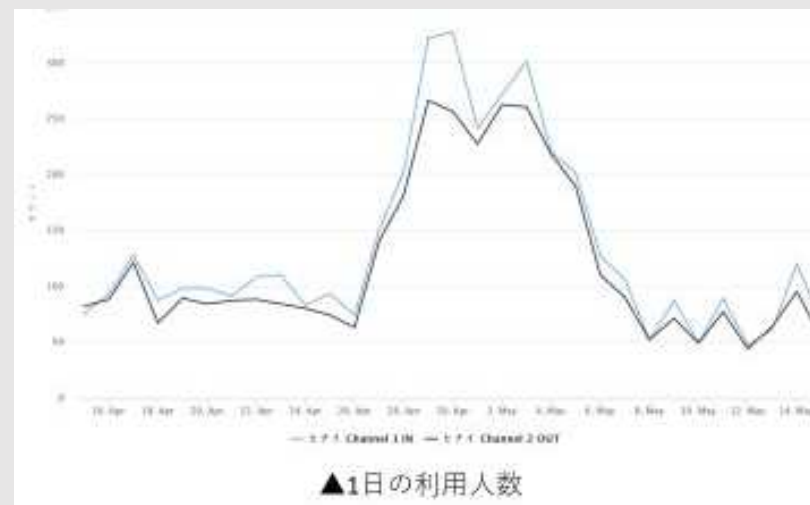


環境省西表自然保護官事務所で現在取り組んでいる主な事業

1. フィールド毎の利用者数を把握するカウンターの設置
2. ピナイサーラの滝周辺での携帯トイレブースの設置
3. 定点モニタリングによる自然環境調査の実施
4. 利用者負担の仕組みの導入に向けた検討
5. 適正な観光管理の中心となる組織の設立に向けた検討
6. 希少種等の違法な捕獲や採取を防ぐための取組
7. 西表石垣国立公園パークボランティア活動の活性化
8. ヤマネコの交通事故防止のための継続した草刈り体制の構築
9. 野生生物保護センターの改修の実施
10. 「崎山湾・網取湾自然環境保全地域」のウミシヨウブ保全の取組
11. ペットボトルを捨てなくて良い島を目指す「MMO」の取組

○フィールド毎の利用者数を把握するカウンターの設置

- ・ 島内の9か所に設置している。
(ヒナイ、西田、浦内、浦内横断道入口、白浜、ユツン、前良、大見謝、仲良)
- ・ 15分おきの両方向からの利用者数が把握可能
- ・ フィールド毎の適正人数を検討するための基礎データなどに活用。



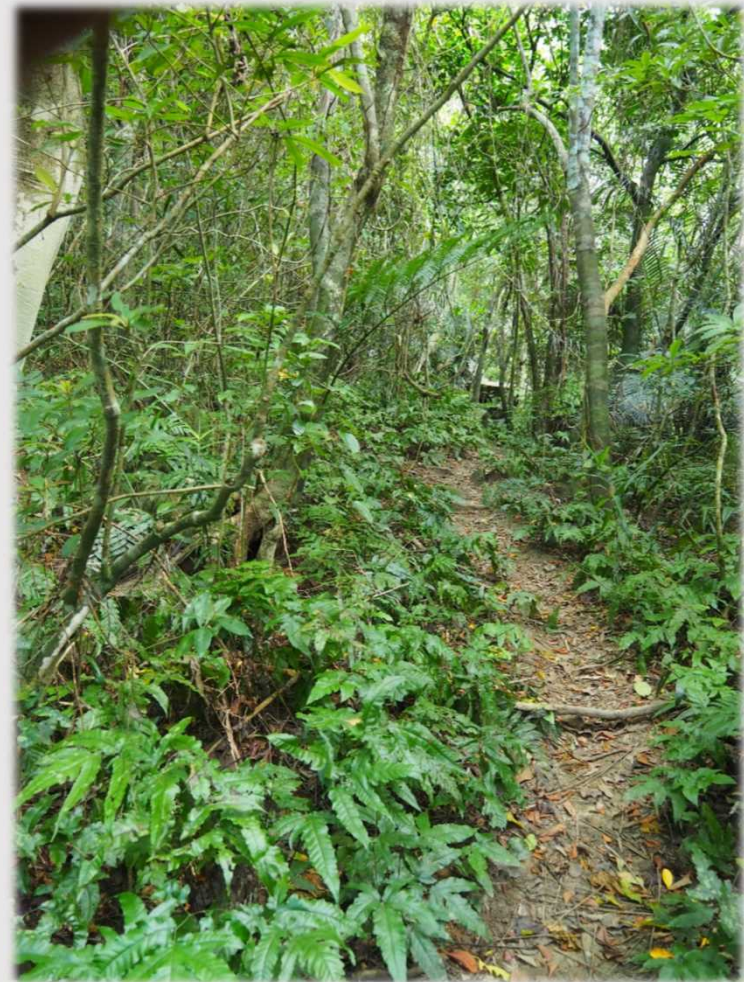
○ピナイサーラの滝周辺での携帯トイレブースの設置

- ・環境省と西表島カヌー組合の連携で、携帯トイレの設置/維持管理を実施
- ・7～8月の試験運用に加え、9月以降の運用継続も検討中。
- ・今年の運用を踏まえ、継続できる仕組み・他フィールドの拡大を検討する



○定点モニタリングによる自然環境調査の実施

- ・西表島内の計24地点で環境省による定点モニタリングを実施
- ・地点毎の自然環境の経年変化の他、利用による影響状況（歩道の拡幅、植生の変化など）なども調査
- ・今後は定点モニタリングの実施個所を増やし、琉球大熱生研との共同調査や、ガイド事業者と連携したモニタリング体制を構築する。



○利用者負担の仕組みの導入に向けた検討

- ・西表島の環境保全の取組や、施設の維持管理などに活用するための費用を、観光客から「入域料」として徴収する仕組みを構築する。
- ・現在、他地域の事例などを収集・ヒアリングしており、今後有識者との勉強会や、検討会、住民との意見交換会などを行い、具体的な制度を構築したい。

○適正な観光管理の中心となる組織の設立に向けた検討

- ・西表島の自然環境保全のための「適正な観光管理の中心となる組織」の設立に向け検討を実施中。
- ・入域料の管理/活用その他、ガイド条例やフィールド毎の上限人数設定などの各施策の窓口、環境保全の取組やモニタリング調査などを行うことができる組織
→「西表島の環境保全のトータルコーディネートを行う組織
- ・利用者負担の仕組み導入と併せて検討会や意見交換会などで議論したい。
- ・遺産地域にある「知床財団」などをイメージしながら、2020年春の設立を目指す。

○希少種等の違法な捕獲や採取を防ぐための取組

- ・西表島での法的規制等を集約した啓発チラシ、ポスターの作成
- ・関係機関で連携した啓発パトロールの実施
 - 8/6に港×2,大富林道、古見登山道で実施
 - 秋にもパトロールを実施予定



自然環境保全のため
西表島へ訪れたみなさんにお願い!
希少種の持ち出しに
注意しましょう。

国指定の天然記念物
国内希少野生動植物種

オカヤドカリ類
ヤエヤマセマルハコガメ
コガタハササキガエル
ヒメハブカズラ

竹富町自然環境保護条例
沖縄県指定の天然記念物

アサヒナキマダラセセリ
ヨナグニサン

ヒメツルアダン
ヤエヤマヤマガニ
ウミガメ類
国立公園指定動植物
ナリヤラン

西表島は、ほぼ全域が国立公園や森林生態系保護地域などの保護区に指定されており、様々な法令によって捕獲等を禁止されている生きものが多数生息しています。これらの種の捕獲等を無断で行った場合は法令違反により罰せられることがあります。

写真掲載種は一例です。保護区の範囲や指定種については裏面のQRコードを参照してください。

○西表石垣国立公園パークボランティア活動の活性化

- ・西表石垣国立公園パークボランティア（約23名）活動の活性化を行うために、定期活動日（毎月第2土曜日）を設定
- ・特定外来種ツルヒヨドリの駆除や、ヤマネコ交通事故防止のための県道草刈り作業、海岸清掃などを実施中。
- ・今年の冬には新規会員の募集を行いたい。





※白浜のツルヒヨドリの駆除は環境省×林野庁でも実施中

○ヤマネコの交通事故防止のための継続した草刈り体制の構築

- ・イリオモテヤマネコの交通事故を防止するために県道沿いの草刈り作業を継続してできる体制を構築する。
- ・草刈りの範囲や実施体制、回数、必要経費などを島民との意見交換などを行いながら今年度中に構築したい。
- ・ヤマネコ保護基金（竹富町）を資金源とし、更に啓発することで循環する仕組みをつくる。
- ・7月から野生生物保護センターで勤務している「竹富町地域おこし協力隊（井上くん）」が中心となり、事業を実施。
- ・9月下旬には、島民などに呼びかけて草刈り作業を実施予定。



○野生生物保護センターの改修の実施

- ・訪日外国人を含む来館者を対象とし西表島の自然やヤマネコ保護などの理解・普及啓発を促進するために、ハード面・ソフト面でセンターの機能を強化する。
- ・イリオモテヤマネコの交通事故防止などを啓発する展示物（VRや動画などを活用）し新設するほか、ヤマネコ保護施設などのバックヤード施設を改修する。
- ・センターやバックヤード施設を見学し、野生生物の生息環境や保護対策等など「イリオモテヤマネコの保護の現場」を体感するバックヤードツアーを実施する。
- ・開館時間の延長や長期休暇時期の開館、スタッフ増員など管理体制の強化を行う。
- ・2019年から3年計画で実施。



○「崎山湾・網取湾自然環境保全地域」のウミシヨウブ保全の取組

- ・ 崎山湾・網取湾のウミシヨウブ藻場の減少が続いており、その対策を実施中。
- ・ 藻場の減少状況のモニタリングの他、原因となるアオウミガメの採食防止のための杭設置試験などを行っている。今年度は試験を踏まえて今後の計画づくり（生態系維持回復事業）を行なう。
- ・ 併せて高密度の生息が続くアオウミガメとの共生に向けた検討を進める。



○ペットボトルを捨てなくて良い島を目指す「MMO」の取組

- ・「ペットボトルを捨てなくて良い西表島」を合い言葉に、ペットボトルゴミの削減とマイボトル活用促進を目指し、島民数人でスタートした取組
- ・島内の飲食店や旅館など（現在40カ所以上）でマイボトル持参で無料で水をおかわりできる「おかわり給水どころ」を展開中。
- ・行政、学校、民間企業などと連携を行い、サーバー設置やマイボトル持参啓発に向けた取組を実施する。

